

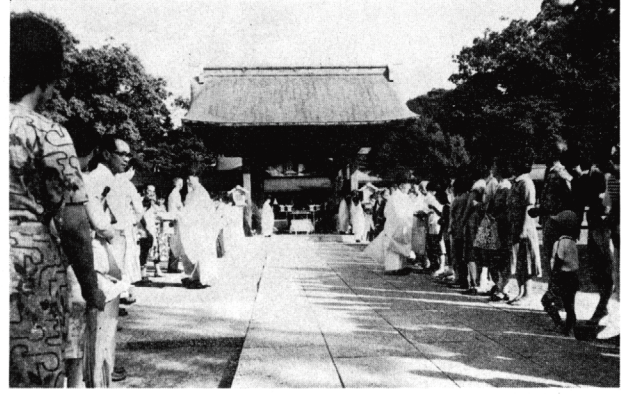


毎月十五日発行 社会 大 宗像 像 宗像 定価 一年送料共 1000円

神輿 装束 結式 用品 九州店 福岡市博多区東区二丁目(八二二) 電話(092)六五九四五六

# 大祓式・夏越祭斎行

## 茅の輪をくぐり罪・穢を祓う



当社恒例の夏越祭の祭典である大祓式が七月三十一日午後五時から、御神門前にて行なわれ、引き続き御本殿に於いて夏越祭が厳かに斎行された。

第一首目より左へ、第二首目とを祈念する宮司の祝詞が右へ、第三首目より再び左へ、第三回茅の輪をくぐる儀式である。茅の輪くぐりの儀式が終った後、引き続き本殿に参進し、神事は西日差す暑暑の中で夏越祭が斎行された。御神前には、海川山野の全国から納められた多数の神饌が供えられ、国家皇室、界隈の洋上に流棄された安泰と氏子崇敬者の繁栄、

### 宗像大社歌会詠草

第二十七回 選者 中村 吾郎

東福間 山本 夏枝  
梅雨晴れのあした真白く大いなる魚のかたち雲の浮かる

### 「御礼」

当社恒例の夏越祭神事斎行に当りましては、宗像市・郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の内形をお寄せいただき、お慰を以ちまして、祭典は天候にも恵まれ滞りなく、盛大裡に斎行致すことが出来ました。

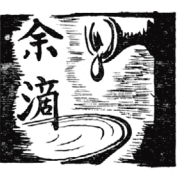
この秋から我が国の紙幣は一新され、長年親しんできた聖徳太子さまお別れしなければならぬ。十七条の憲法で有名な本字は、また当時の超大国、隋に對し「日出ずる処の天子、日没する処の天子に書を致す」の象徴として経済発展に大いに貢献された訳であるが、長い間苦勞を伴ったと感謝の拍子を送りたい。とこそ、お金といえは玄界灘の神島沖ノ島から富壽神宝といふ一枚の貨幣が発見された。この銅貨は皇朝十二銭の中の一つで日本最古の貨幣、和同開珎から数えて五番目、弘仁九年(八一八)に海造されたもので、その文字は嵯峨天皇ともし弘法大師の書ともいわれ、しかしながら、この富壽神宝も含めて平安時代に造られた銅貨は形も小さく出来もあまり良くない。そしてこの皇朝銭を最後にその後約七百年間、我が国で貨幣は発行されていない。その代りに中華で中国から宋銭、明銭を大量に輸入して使用していた。これは我が国の鑄造技術が悪く、しかも金貨が不足であったからであろう。江戸時代は金貨、銀座といふ商人の組合が貨幣を造り、幕府はそれを管理するだけであつた。政府自身が貨幣を造るのは明治からである。現在の貨幣は発行されている。現在日本は鑄造技術は世界最高の水準にあるといわれている。いま神皇正統の二一に収まるこの小さな銅貨は、当社の大社費銀第一号であり、また我が国貨幣変遷の長い歴史の生証人といえよう。

### 論 説

## 憲法記念日に思う

いま一つ、護憲派のなかの有力な団体として社会党、共産党など、表面は護憲を唱えながら内実は改憲をもくろんでる勢力があることは、さらに見逃せない。社、共両党がそれぞれの綱領の文書で、現憲法の大幅の改定(天皇制、私有財産制の否定など)をめぐしては、かなり以前から指摘されてきているところである。現在、彼らが護憲を力説しているのは、ただ戦術的に護憲運動を利用して国民を欺して見せたいことを、決して見落してはならない。

この石橋委員は、先ごろ開かれた社会党大会でも「論理的に矛盾し、かえってわかりにくい」とか「なし崩しの自衛隊容認につながるのではないかなど不審の質問が次々に出て議論が沸かぬ」。



### 余滴

この秋から我が国の紙幣は一新され、長年親しんできた聖徳太子さまお別れしなければならぬ。十七条の憲法で有名な本字は、また当時の超大国、隋に對し「日出ずる処の天子、日没する処の天子に書を致す」の象徴として経済発展に大いに貢献された訳であるが、長い間苦勞を伴ったと感謝の拍子を送りたい。とこそ、お金といえは玄界灘の神島沖ノ島から富壽神宝といふ一枚の貨幣が発見された。この銅貨は皇朝十二銭の中の一つで日本最古の貨幣、和同開珎から数えて五番目、弘仁九年(八一八)に海造されたもので、その文字は嵯峨天皇ともし弘法大師の書ともいわれ、しかしながら、この富壽神宝も含めて平安時代に造られた銅貨は形も小さく出来もあまり良くない。そしてこの皇朝銭を最後にその後約七百年間、我が国で貨幣は発行されていない。その代りに中華で中国から宋銭、明銭を大量に輸入して使用していた。これは我が国の鑄造技術が悪く、しかも金貨が不足であったからであろう。江戸時代は金貨、銀座といふ商人の組合が貨幣を造り、幕府はそれを管理するだけであつた。政府自身が貨幣を造るのは明治からである。現在の貨幣は発行されている。現在日本は鑄造技術は世界最高の水準にあるといわれている。いま神皇正統の二一に収まるこの小さな銅貨は、当社の大社費銀第一号であり、また我が国貨幣変遷の長い歴史の生証人といえよう。



# 第二十九回

## 中津宮七夕揮毫会

恒例の中津宮七夕揮毫会が、去る七月二十四日(日)に、郡内小学校五年、六年の夏期行事と期日重なった為、当日参加が出来ない生徒を対象に、二十二日、二十三日の両日に亘り、特例として中津宮に於て揮毫を執り行った。これらの諸事情により、主催者側として参加者の不足が心配されたが、その心配をよそに、当日は、神楽発七時四十分のフェーリ、そして臨時便弁天丸共に満船となり、予定通り五百名の児童、それに伴う父兄家族が大島に集った。

午前九時、揮毫会場である大島小学校で第一回目の揮毫が開始された。



今日に備えて何十枚、何百枚となく練習を続け、連日頭張ってきた努力の成果をこの揮毫に、吾々の出来ばえ如何と心配そうに窓辺よりながめる母親の姿が印象的であった。

特にこの日は天候に恵まれたせいか、玄海の波も穏やかで、船酔いの子供もなく、平素の実力そのままの力作が中津宮社務所受付に納められた。

午後一時、受付を終えた全作品は、お供を受けて神前に奉奠。撤下の後、齋館で審査が始まった。

審査員の城戸筑山、坂口雅風両先生は、各学年毎に一点一点を厳重に審査、作品はどれも優秀な出来ばえで甲乙がつけ難く、しばしば両先生を悩ませる場面もあつたが無事審査を終了した。

午後三時から、社頭で表

## 第八回宗像大社 小倉百人一首かるた大会

― 境内に流れる平安の調べ ―

梅雨入り前の六月三日(日)、十日(日)の二日間、小倉百人一首かるた大会(主催・宗像大社、後援・玄海町教育委員会・全日本かるた協会・フクニチ新聞社・福岡東ロータリークラブ・なにわがた会・九州かるた協会)が、当社、儀式殿、清明殿の三会場にて開催された。

参加者は九州各県をはじめ、東京都や山口県など各地から三百名を数え、三日の八階級に、又十日には

D級 一般の部  
優勝 桑 倫子 武蔵野市  
二位 森 いしえ 長崎市

C級  
優勝 野見山 恵 筑紫女学  
二位 松村育子 福岡市  
三位 高浪 芳子 筑紫女学

B級  
優勝 早川裕章 慶応大学  
二位 橋爪順子 熊本女子  
三位 保科尚代 福岡市

A級  
優勝 鶴田 究 鹿児島市  
二位 和田貴一 九州大学  
三位 平山千津子 福岡市

山下尚子 鹿児島大  
堀内美和 福岡教育大  
田代真理 河浦高校  
岩永知子 福岡高校  
西村志保 河浦高校  
吉武拓司 古賀中学  
山路啓子 和白丘中  
郷 春菜 和白丘中  
三浦真美 和白丘中  
矢山 忍 古賀北中  
京谷真由美 古賀北中  
上床絵美子 筑紫女学

山口英明(中央中3)  
【宗像郡議会議長賞】  
松島志穂(東郷小4)  
城野和子(福岡南小2)  
【大島村長賞】  
村井晴美(赤間小5)  
川手紀世美(赤間小1)  
【大島村教育委員会賞】  
矢崎大介(河東小3)  
栗崎素子(自由ヶ丘中2)  
【フクニチ新聞社賞】  
永島りえ(勝浦幼) 永島あき子(玄海小2)  
永野千景(日里西小3)  
中村ひろみ(河東小3)  
中村真子(福岡小4)  
門司清香(赤間小5)  
山本絵理(赤間小6)  
山本須賀子(城山中3)  
辻 雅則(中央中3)  
以上九名

【書道会賞】  
中野みさ(玄海小1)  
井原優子(福岡小2)  
宮本 栞(大島小3)  
遠藤富美(大島小3)  
水島妙子(勝浦小4)  
山本 篤(赤間小5)  
山本瑞恵(赤間小6)  
内田悦子(平野中1)  
田中信彦(玄海中2)  
以上九名

【高文堂賞】  
とりますみずの(信愛幼)

【ヒロカネ賞】  
平川敦子(大島幼)  
花田一祐(河東小1)  
磯部真治(玄海小2)  
真武いづみ(赤間小2)  
松尾晃一(津屋崎小3)  
吉田宗史(河東小3)  
吉田容子(東郷小4)  
加藤由美(上西郷小4)  
峯 剛志(自由ヶ丘小4)  
吉川雅子(東郷小4)  
真子勝良(河東小5)  
平川由美(大島小5)  
大庭恵一(津屋崎小6)  
安部真理(中央中1)  
田中陽子(福岡中1)  
以上十五名

黒黒なお(西海幼) いまき  
うれりんて(信愛幼) 佐藤りゅう(大島幼) 花田みか  
(玄海東小1) 福岡ゆき  
福岡小1 井浦美佳(上西郷小1) 青柳那生子(津屋崎小1) 田辺忍(福岡南小2) 矢崎弘之(河東小2) 伊豆つよし(赤間小2) しいやうこ(河東小2) 大和ゆかり(吉武小2) 近藤直子(日里中1) 辻健次(中央中1) 竹本やすたか(大島小3) 河辺知香子(大島小3) 池浦由記(福岡南小3) 松元英樹(東郷小3) 佐藤優子(河東小3) 大和順子(吉武小3) 川口貴史(上西郷小3) 吉田佳世(東郷小4) 船越英明(玄海小4) 田辺秀之(福岡南小4) 平川白合(吉武小4) 井本佳宏(福岡小4) 落石涼子(津屋崎小5) 高田敦資(津屋崎小5) 河辺恵理(大島小5) 花田美香(河東小5) 宮崎千寿子(玄海小5) 吉武里美(日里小6) 富金原和彦(赤間小6) 石田理絵(赤間小6) 井手美由希(自由ヶ丘小6) 松尾長子(板付小6) 浅川真妃(福岡小6) 以上十八名

樋口真子 日里西小  
黒木亜矢子 日里小学校  
黒松真紀子 若宮小学校  
高松真紀子 若宮小学校  
E級(チラン取り) 学校  
木下豊憲 聖和小学校  
栗崎路子 人吉東間小学校  
渥美和重 聖和小学校  
中井善貴 若宮小学校  
五島紀子 美和合小学校



### 残暑御見舞申し上げます

おかげさまで30周年  
みなとタクシー(株)  
代表取締役 古野 浩  
宗像営業所 宗像市土穴三九八十一  
TEL 0940-1331-1331  
玄海営業所 宗像郡玄海町神湊・鐘崎  
TEL 0940-1621-1333  
事務所 宗像郡玄海町 宗像大社前  
TEL 0940-1621-0011

新星交通株式会社  
代表 森 義 久  
宗 像 市 大 字 東 郷  
東郷営業所 (094) 361-1338  
赤間営業所 (094) 331-3038  
神湊営業所 (094) 621-0010

宗像西鉄タクシー 株式会社  
代表取締役 中村 直 弘  
支 配 人 熊 谷 実  
宗 像 市 自 由 ヶ 丘 二 一 七 一 三  
TEL (094) 321-4131

宗像グリーンタクシー 有限公司  
代表取締役 山根 公 雄  
専務取締役 藤瀬 将 俊  
宗 像 市 大 字 河 東 一 一 二 二  
TEL (094) 331-3333







# 宗像大社歌会 俳句作品集(三)

**福岡** 広渡一寿軒  
とこでらんナムネも冷やし  
霞貫茶屋

**八幡西** 磯谷緑雨  
アジサイに染りて佇り梅  
雨晴れ間

**田熊** 丸九 一郎  
梅雨の月看取り疲れの目に  
重し

**福岡中央丸** ゆずる  
俣む人つつきつづきて蟬の  
鳴く

**東京** 白木 静江  
行者道いよいよ細し時鳥  
の鳴

**藤沢** 井上 玄洋  
さそり座の尾は海に入る熱  
帯夜

**津屋崎** 西住喜三郎  
短夜や漁港目覚むる刻近づ  
く

**香椎** 板矢クニコ  
紫陽花や雨のしづくの濃む  
らさき

**田熊** 安部 ゆき  
林泉やしほし丸太に腰おろ  
し

**名古屋** 野崎 伝三  
花活けて冷房の部屋に友を  
待つ

**津屋崎** 井浦 良介  
遠花火温もりし椅子譲らね  
ば

**福岡西** 入江 柳江  
さば茶づけ子供の頃のなつ  
かさき

**鐘崎** 岩瀬 辰夫  
朝顔の初吹き妻に起されて



## 玄界沿岸地名探訪 (6) (三)

### 地ノ島 (宗像郡玄海町)

青柳精三氏は「沿岸地名の構造」の中で、千葉県銚子市外川町を訪ねた折のこととをこのように記している。「ある漁師からこはキヘダオレという暗礁がある。喜平という屋号の家の人がそこで遭難して一命を落したので、その名がつけられた。だが喜平の家の人をさばにしている時はそうはいわない。」(自然と文化、一九八三)

瀬戸内海では孫兵衛岩(方位を示すところからの地)

玄界側は案外と波静かです。音をたてています。岡垣町波津側はザラザラと、海が荒れた時は、サザラと、た音がたちますが、響灘の名は、これからついたのではないかと、思ふほどです。

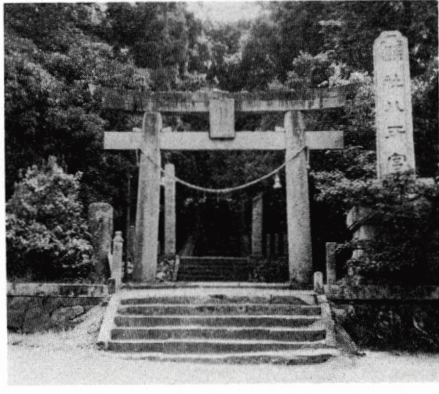
イガイ、イガイ。この岩はイガイ、いばいばくっついて、いるのでこの名があります。イガイは岩礁の意です。イガイはイガイ科に属する貝で潮間帯より水深20メートルの岩礁に附着します。中身がある種のものによく似ていて、タリ貝とも呼ばれています。このイガイが、海の中にあって、その姿が見えにくいので、以前この音を立てるのでこの名があるといわれています。

ついでにササエ(瀬)は、岩の形がさざえのような形なのでこの名があります。このように魚介類の名が冠せられるものには、そこに生息するものや、よく獲れることからのものが多いようです。アジ岩(菊間港)、イカナイ、ワカメ、オコサノ瀬、ワカメ、オコサノ瀬(跡部治前掲書)もそれに類するものです。

その他、観音岩(観音洲)、浦(観音洲)も、その名前が祀られているのでこの名があります。同じ玄界灘に浮かぶ相ノ島にも「厳霜観音」があります。前記、音「イ」が、イ、イ、イと聞こえる(「島の形が彫刻されたところから指洞門(五つ洞門)を指す。この度人が指で穴をあけた。その命名発想には命名者、すなわち漁師さんたちのたくましい想像力をよみとることが出来る。」「島の海岸地名上野智、自然と文化」とい言葉にすべていい表わされているといえます。

### 神郡社寺めぐり (3) 八所宮と釣鐘 (宗像市赤間)

去る六月十四日の新聞に報じられた「八所宮の釣り鐘が里帰り」の記事を読んだ方も多いと思う。今回は、この八所宮を訪ねてみた。宗像市赤間西鉄バス営業所前より直方市方面に右折し約二キロ走ると左に石の大鳥居が目につく。すくすくと育つ青楓の田園にひっそり美しい影を落して、始めて参拝する人は鳥居だけポツンとあり、鎮守の森がないので不思議に思われるであろう。鳥居をぐるり小高い丘を越えながら左右の風景を目に追いつつ進むと丘の麓に



八所宮の神社殿を見ると古武村大字吉留宇宮内に鎮座とある。祭神は榎根(かしくね)尊を正殿とし泥土敷(ういぢい)尊より七神を以て相殿とす。すべて八神也。赤間の辺すべて十村の土地神也と記されている。又由緒には、神武天皇日向日東征の折、岡の溝(岡垣町)につかれた時、当社の神、赤き馬にて神形を現して里民に下知官軍に従はしむ。依て其所を赤馬(赤間)と名付、目下保存する処の神額は、小野道風が天曆年間筆したとあり、又八所宮の釣鐘についても、天正十年豊臣秀吉、筑前下際、該神田没収す。この折鐘様にある釣鐘を島津証討の秀吉が部下に命じ戦利品として持ち去ったと社の古史料にある。

この鐘は現在、安芸宮島の厳島神社供養堂「千畳閣」に下げられ、広島県指定

### 社頭雑感

現代の日本には多くの宗廟が散在している。仏教、キリスト教、イスラム教など、これほど寛容的な国はないであろう。その反面農業者の減少も進んでいる。その為農村では労働力の不足を近代化的な農具によって補っているのが現状である。しかし農業の近代化は我が国が工業化する過程で第二次に引き起こされた現象であって、農業は致命的な打撃を受け、国内に限って見れば、穀物の自給率がほぼ半減し、食料供給の能力がなくなっている状態である。また農地は工業用地や市街地となって狭

たように、五つの洞門が並んでいるのでこの名があらま。池瀬(この岩はまん中に窪みがあり、いつもその窪みに海水が満ちていて、二度池のようであるので、この岩を池瀬と呼ぶそうです。

以上地ノ島の地名について述べましたが、島の地名には、(4)島の事件、(5)瀬の形状、(6)方位等に分類できるようです。

「その命名発想には命名者、すなわち漁師さんたちのたくましい想像力をよみとることが出来る。」「島の海岸地名上野智、自然と文化」とい言葉にすべていい表わされているといえます。



## 残暑御見舞申し上げます



**総合建設業**  
株式会社 **弘江組**  
代表取締役 **中野弘愛**  
事務所 福岡県宗像市大字稲元 〇三三  
電話 〇九〇 三二二五六七 三三三九一八

**総合結婚式場**  
**のみ会館**  
取締役社長 **野上藤三郎**  
飯塚 飯塚市新立 二二三七  
宗像 宗像市大字土穴 四六六一  
筑紫 筑紫野市大字塔の原 九六九  
〇九一九三三二二二

**宗像グリーンセンター**  
**株式会社**  
代表取締役 **瀧口潤一郎**  
宗像市大字稲元 九〇五  
TEL 〇九〇 三三三二二七一

**ハナダ写真館**  
代表者 **山下孝男**  
福岡県宗像市大字東郷 一〇三一  
TEL 〇九〇 三三六二〇〇九代